



関口雄揮記念美術館 所蔵作品展

色彩幻想 II

会期 / 2012年6月23日(土)~10月21日(日)

休館日 / 月曜日(祝日の場合は翌火曜休館)

開館時間 / 午前10時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

色彩幻想 II

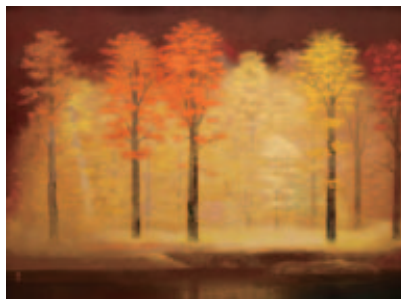
表の作品：《冬の華》（部分）2001年

※ 学芸員によるギャラリーツアー 随時受付

◎第1展示室：風景と色彩

幼い頃から豊かな自然の中で育った関口にとって、絵を描く際に自然風景を対象として選び、その姿をありのままに写そうとすることは必然だったと言えるでしょう。ただし画家としての関口は、さらにそこに非現実的な色彩を施し幻想的な風景を創出することで、独自の作品世界を築き上げてゆきます。

赤、青、緑などの原色が響き合う風景はただ美しいだけではなく、暖かさや慈しみ、不安や緊張感などに満ち、現実的な風景以上に見る者の感情を強く揺さぶります。本展では色彩によって鮮やかに変ぜられた風景の作品を展示し、色彩のもつ意味やそこに込められた情感を体感していただきます。



《彩》1996年



《冬の華》1997年

◎第2展示室：《陶土》の連作

《陶土》の連作を紹介します。関口の独特の色彩感覚は、自然風景を描き始めるはるか以前から発揮されてきました。それが最も顕著に表れたのが、1960年代初頭に制作された《陶土》の連作です。シュールレアリスムや抽象表現への接近を思わせる画面は、岩絵の具がもつ鮮やかな発色を活かして極彩色に彩られています。後の幻想的な彩色につながる表現の萌芽として、注目すべき作例です。



《土の工場》1963年

◎第3展示室：色と線 ～留学時代のスケッチから～

戦後間もなく念願のフランスへの留学を実現させた関口は、西洋美術の技術の習得に情熱を傾けた。しかし日々スケッチを重ねるなかで日本画的な線の効果を再発見し、その情熱は葛藤へと変わってゆくこととなる。当時のスケッチから、若かりし頃の関口の内なる西洋と日本、色彩と線との葛藤をご覧ください。



パリでのスケッチ 1954年

◎関口雄揮記念美術館

日本画家・関口雄揮（せきぐちゆうき）の作品を所蔵、展示する美術館。年間3回の所蔵作品展の他、屋外での特別展示やお茶会などのイベントも開催しています。

展示スケジュール

- 第1期：2月～6月
- 第2期：6月～10月
- 第3期：10月～2月

※展示スケジュールは変更となる場合があります
※各会期の間では、展示替え作業のため1週間程度休館させていただきます
※ご来館の際はホームページまたはチラシなどで会期をご確認ください



◎Cafe ボザール

館内併設のカフェ。明るく開放的な空間で、周囲の景色を楽しみながらご休憩いただけます。カフェのみでもご利用いただけますので、お気軽にお立ち寄りください。

Menu

- コーヒー ¥500
- ココア ¥600
- 抹茶 ¥600
- フルーツハーブティー ¥450
- レモンズコーン ¥250
- 抹茶シフォンケーキ ¥400
- アイス3種盛り ¥500
- 他



◎ご利用案内

入場料金

	大人	大学 専門学校生	中高生	小学生	幼児
通常	¥800	¥600	¥400	¥200	無料
リピーター※1	¥600	¥400	¥200	¥100	無料
芸森※2 / 団体※3	¥700	¥500	¥300	¥100	無料

※1 当館入場券の半券をお持ちの方 ※2 札幌芸術の森美術館の観覧券をお持ちの方
※3 15名様以上の団体

敬老優待（要敬老手帳） ¥600 障害者優待（要障害者手帳） 通常料金の半額 前売り券 ¥600

アクセス

◎地下鉄・バスをご利用のお客様
地下鉄南北線「真駒内」駅バス2番乗り場より中央バス乗車（約14分）「芸術の森入口」下車
真駒内方面へ徒歩1分

◎お車をご利用のお客様
札幌市街中心部より国道453号線を南下支笏湖方面へ（約40分）
専用駐車場あり



関口雄揮記念美術館

〒005-0853 札幌市南区常盤3条1丁目（芸術の森入口）
TEL 011-593-5050 <http://www.sekiguchi-muse.jp/>